

\* 学会とは異なる研究会においては、日常的な研究会活動の充実が不可欠である。36 年の歴史を有する本研究会の場合、事務局メンバーの尽力により、ルーチンの活動は着実に実施できているが、研究会活動の活性化という点では、課題が山積みである。例会報告や『野草』掲載論文などにおいては一定の研究水準の向上が見られたが、個人の研究活動と日常的な研究会活動とが、有機的につながっているか、という点では疑問が残る。国立大学の法人化、少子化による大学再編成の時期にあたって、専任の大学教員である会員は多忙化し、非常勤で生活する会員や大学院生の置かれている状況には一定の困難があり、これから研究会活動の責任を負う中核的機関をどのように運営していくのか、いっそうの工夫が求められている。

#### ・ 2005 年度活動報告

\* 会員数は 312 名（2006 年 4 月 8 日現在。昨年度同期 290 名）と大台を突破した。遠方会員で、住所不明のまま除籍となる会員が一定存在する一方で、大学院生・留学生を中心とする若手層が入会してきており、その一部は例会や合宿にも参加している。研究会活動における今後の活躍が期待されるが、定着という面ではまだ弱さが残る。また中堅層の例会参加の減少傾向が続いており、相対的に若手層の積極的活動が目だった。

\* 運営面では、事務局の役割分担を明確にして、順調に研究会活動が展開されたと考えられるが、今後、更に事務局の役割（分担体制と全体の調整など）を実践的に工夫していくことを通じて、実務や運営を直接的に担う会員を増やし、研究会の活性化につなげていく必要がある。

\* 以下、各事業項目に従って活動状況を報告する。

##### (1) 『野草』刊行について

\* 第 76 号（2005 年 8 月 1 日刊行 / 特集 / 編集担当：弓削俊洋 / 版下作成：平坂仁志）および第 77 号（2006 年 2 月 1 日刊行 / 編集担当：中野知洋・今泉秀人 / 版下作成：平坂仁志）を予定通り刊行することができた。内容的にも、高い水準が維持できた。

\* 関西在住以外の執筆者（海外を含む）も含めて、例会・合宿で報告・討論の後に『野草』に執筆するという基本方向は、定着したと言ってよい。特に第 77 号は、最終校正・合評にも遠隔地執筆者がほぼ全員参加できた。

\* 「『野草』編集の手引き」作成による編集作業のマニュアル化が進んだが、「手引き」を十分に活用し切れなかった側面も残った。手引きの改訂が遅れている点が編集委員会としての反省事項として残る。

\* この間、編集委員会が十分に機能して来なかったため、『野草』編集・刊行に関わる中長期的な計画が策定されていない、編集作業が編集担当者（と副担当＝相談役）に任せきりになる傾向が生じるといった幾つかの弱点も引き続き存在している。対外的には研究会の水準は『野草』で測られており、その編集に責任を負う編集委員会を、研究会活動全体に目配りしつつ『野草』の研究水準の向上に日常的に関わる組織として、実質化する方策を考える必要がある。

\* 『野草』編集担当経験者には、引き続き編集委員に残ってもらう形をとっているため、それを生かす方向での体制を考える必要がある。

##### (2) 『会報』発行について

\* 永井英美・井上薫・上原かおり・和田知久・佐原陽子・三須祐介・島由子・羽田朝子という 8 名の編集担当体制によって、第 282 号（4 月）～第 293 号（3 月）まで順調に発行した。遠隔地在住者に

よる編集も、「事務局メーリングリスト（ML）」を用いた協力体制により定着した。毎年、新人が加わることで、担当者の負担が軽減し、また他の担当との兼務者を減少させることができた。

\* 2月例会の休止にともない、2月号を3月号発送時に同時発送としたが、「メールマガジン」を3月初旬に発行したこともあり、大きな混乱は生じなかった。送料の関係もあって設定された「12頁を限度とする」という原則は守られた。

\* 複数の連載があったこともあって原稿募集の苦労は減少したが、投稿を増やしつつ内容充実と多様化を図るという近年の課題は、今後も引き継いでいかなければならない。また時期によって投稿の数にばらつきがあり、多いときは12頁を越える可能性も存在した。印刷版会報を隔月発行にして、月報のメールマガジンと別運営にするなどの工夫が必要になるだろう。

\* 「交流」は、会員の意識的努力とコンピュータネットワークの活用によって収集する形態は定着したが、情報提供者に偏りがあるなど、まだ弱点は残っている。「例会」記録は、報告者によるレポートという形はここ数年定着している。

\* 機動性・刺激性にあふれた研究情報誌としての『会報』のあり方を、引き続き工夫していく必要があるだろう。

\* 印刷用に作成した版下を平坂仁志がHTML化した後、登録者に配信するという、『会報』メールマガジン版の発行は定着した。ただし、登録者は、現在のところ延べ78件に留まるため、当分の間、印刷されたもの（紙媒体版）との2本立てが必要である。引き続き登録者の拡大を図る必要がある。

### (3) 「例会」開催について

\* 2月例会を休止しているが、年間10回の「例会」を、担当者（濱田麻矢）の尽力によって着実に開催した。研究発表の他、4月例会で坂元ひろ子さんの講演を、12月例会では木山英雄著『人は歌い人は哭く大旗の前』の書評を行った。参加人数は月によってばらつきがあったが、平均すると20名を越える会員が集まったといえる。

\* 例会参加者は、若手層、留学生を中心に増加している反面、定着が難しいという問題がある。自己の研究報告の場としてのみ例会を位置づけている傾向があると同時に、ベテラン層や中堅層の出席が少ない際など、例会での議論に深まりを欠くという問題も背景に存在したと思われるが、今期は報告内容ごとに専門の近い会員が意識的に参加して、盛り上げるということが一定行われたので、活発な議論が行われた回があった反面、あまり活発に議論できなかった回もあり、ばらつきがあった。

\* 研究発表は、『野草』投稿希望者によるものが半数を上まわり、「例会報告 『野草』掲載 例会での合評」というサイクルは定着した。その一方で、『野草』投稿関係以外の報告、特に充実した研究成果の報告の枠を設定しにくいという課題も残っている。2月例会の休止に対応する枠として、新たに7月例会を設けた。『野草』と会報の発送だけに事務局が集まっていた7月に例会を設けることによって、報告枠の減少等の問題は緩和された。

### (4) 「夏期合宿」について

\* 夏期合宿は、8月29～31日の3日間にわたって伊野簡易保険保養センター・かんぼの宿・伊野において実施した。参加者は21名であった。担当者（鈴木康予）と現地会員高橋俊の尽力により、閑静できれいな会場を確保でき、関東、北海道地域からの参加者も得て、盛況であった。

\* 書評枠では、劉文兵著『映画のなかの上海 表象としての都市・女性・プロパガンダ』をとりあげ、著者の劉氏の参加も得て、議論を深めることができた。

\* 野草枠および個人発表での報告および討論の内容を、『野草』77号に反映させることができた。

### (5) 「書評の会」について

\* 松浦恆雄(責任者)・今泉秀人・西村正男が中心となって、4・6・10月例会開始前の時間で開催した。

従来通り、共通の書評の他に、最近読んだ書籍・論文などの情報交換を行った。

\*参加者は総じて多くはないが、関西在住者以外からの反応も寄せられている。「書評の会」の活動を基礎にした、研究会活動の活性化を図る手立ての工夫が可能なように思われる。

#### (6)「特別事業」関係について

\*2002年度「野草基金特別事業」として、『今天』復刻版を再発行した(100部)。販売は内山書店に委託したが、売行きは芳しくない模様。今後の処理については検討を要する。

\*「野草基金特別事業」として、斎藤敏康・黄英哲が中心になって、『劉呐鷗日記』刊行に取り組むことを決定した。準備作業は進められているが、刊行時期に関しては未定の段階にある。

\*「研究会特別事業」として、宇野木洋を中心に、『図説中国 20世紀文学』(白帝社)の改訂作業に取り組むことを決定した。2003年度末に改訂準備委員会(宇野木洋・松浦恆雄・青野繁治)を発足させ一定の作業を進めてきたが、現在、停滞状況にある。出版社との関係もあり、早急に編集委員会(執筆グループ)を立ち上げる必要がある。

#### (7)「野草ネットワーク」について

\*ウェブサイトは、菅原慶乃が中心となって管理・更新作業を行なった。

URL = <http://bluesky.osaka-gaidai.ac.jp/~bungei/bungei.shtml>

\*「野草ML」は会員交流の場として、「事務局ML」は運営に関わる意見交換、実務作業効率化の手段として重要な役割を果たしてきた。ただし「野草ML」はあまり活発ではない。気軽な情報・意見交換の場として、いっそうの活用が望まれる。「野草ML」の運営上の問題点として、「誰が参加しているのかわからないので、発言がしにくい」という意見が過去にあった。リプライ係、ネタ振り係を設けるなど、活発化の工夫が望まれる。

#### ・2006年度活動方針

\*運営体制を更に工夫し、研究会の全般的活動の水準維持と向上につながるよう努力しなければならない。そのためにも、事務局の仕事を引き続き合理化し、明確な分担体制を確立し、各種活動が連携し合えるように円滑な運営を図ることが必要である。

\*その際には、大学院生を中心とする若手層および関西在住以外の会員にも、主体的・積極的な参加と具体的な役割分担を呼びかける必要がある。活動の工夫を続けるとともに、若手層の自主的積極的な提言と取り組みも歓迎したい。

\*研究会活動の活性化には、例会報告や『野草』掲載論文などにおける研究水準の向上が不可欠である。研究会活動総体としての研究の高度化を、より意識的に追求していかねばならない。

#### 1. 各種研究活動について

##### (1)『野草』刊行

\*「特集」を組むかどうかなどに関しては、編集者の裁量に委ねる。なお、編集作業においては、「『野草』編集の手引き」の活用と締切り厳守の徹底により、「原稿審査(査読)」、版下作成を含む全ての編集作業を円滑に進める必要がある。

\*「例会報告→『野草』論文掲載→例会における合評」という流れを基本原則とするが、その主旨は水準の高い論文を掲載していく点にあることを、改めて確認しておく。編集担当者は執筆予定者との連絡を密にし、かつ例会担当者との関係も図る必要がある。また執筆者は合評会と最終校正に出席すること。

\*当面の発行計画は以下の通りである。

- ・第78号 = 2006年3月末〆切、2006年8月1日刊行予定。編集担当：青野繁治
- ・第79号 = 2006年9月末〆切、2007年2月1日刊行予定。編集担当：工藤貴正

・第 80 号 = 2007 年 3 月末〆切、2007 年 8 月 1 日刊行予定。編集担当：濱田麻矢（藤野真子）

## (2) 『会報』発行

\* 紙媒体版とメールマガジン版の二本立てで発行する。ただし、「例会」開催日程との関係（次項参照）から、2 月号はメールマガジン版のみの発行とし、3 月末に紙媒体版の 2 月・3 月号を同時発行する。メールマガジン化の作業は平坂仁志が担う。なお紙媒体版は不要である、という方は事務局まで一報を。

\* 300 号記念号を発行する。300 号のメルマガ版は、印刷版とは別内容で、交流、例会案内等を 8 月を除く毎月配信。（担当：平坂・青野）

\* 編集担当体制は、永井英美・井上薫・上原かおり・和田知久・佐原陽子・三須祐介・島由子・河本美紀に、新たに津守陽・田村容子を加えた 10 人によって担う。将来的には「年間 1 人 1 回担当」を目指すべく、編集担当者の拡大を図っていく。誌面は諸事情により最大 12 頁とする。原稿の依頼・採否等は編集者の判断で行なう。

\* 内容の充実・活性化をいっそう図っていく。引き続き「交流」欄を充実させる。事務局でも努力するが、全国の会員も「野草 ML」などを活用して研究情報をお寄せいただきたい。また「書評の会」の議論を反映するように工夫すること、海外留学生との連絡を密にして「現地レポート」を依頼することなど留意されたい。「例会」記録は、原則として「例会」報告者が執筆する。

\* 海外研究機関・研究者への贈呈および海外留学生への配送サービスのあり方については、引き続き検討する。海外研究機関に贈呈する会報をメルマガにし、郵送を停止することを、時期、通知方法なども含めて事務局で検討する。海外発送担当は好並晶とする。

\* 将来のあり方を展望して、メールマガジン版の読者を拡大する必要がある。メールアドレス登録の呼びかけを強化する。メールマガジンの運営と作成は、青野繁治と平坂仁志が行う。

\* メールマガジンの PDF 化について検討する。（海外研究機関への会報贈呈を PDF 版メール配信にして郵送費を削減する。）

\* 編集担当者・原稿送付先・留意事項は以下の通り。

### 【編集担当者】

・2006 年 4 月号（3 月末原稿〆切・4 月上旬版下作成・4 月末発送）= 永井 / 5 月号 = 井上 / 6 月号 = 和田 / 7・8・9・10 月合併号 = 佐原・永井・和田・三須 / 11 月号 = 上原 / 12 月号 = 河本 / 2007 年 1 月号 = 島 / 2 月号（メルマガのみ 2 月配信、印刷版 3 月発送）= 津守 / 3 月号 = 田村 / 4 月号 = 三須

### 【原稿送付先】

・郵送

〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1 大阪外国語大学青野研究室気付

中国文芸研究会事務局

・Eメール [bungei@aonoken.osaka-gaidai.ac.jp](mailto:bungei@aonoken.osaka-gaidai.ac.jp)

### 【留意事項】

・原稿は、原則としてフロッピー入稿にプリントアウトを添付（外字部分を明記）することとし、返却は行なわない（ただし原稿・写真などの返却を希望する場合は、その旨を申し出て、切手添付の返信用封筒を同封すること）。なお、Eメール入稿も可であるが、その際もプリントアウトを郵送することが望ましい。

## (3) 「例会」開催

\* 「例会」開催数は、年間 10 回とする（2 月、8 月は例会を行わない）。月の最終日曜日午後 1:30 より開会することを原則とする。12 月は忘年会を兼ねるため、日時は別途定める。

\* 講演（会員外・他領域・外国人研究者などを含む）・書評を年間各 1 回程度、『野草』関連報告を数

回組み入れる。『野草』合評会（9・3月例会）の討論内容は、次号の『野草』誌上に掲載する。論文執筆者は合評会に出席することを原則とする。

\*「例会」担当は濱田麻矢とし、例会の企画と報告希望者の調整を行なう。調整の必要から、希望者は早めに申し込むことを望みたい。コメンテーターについては報告者の申し出によって相談する。

\*会場は、偶数月は白雲荘（京都会場＝京都市上京区寺町上立売上ル2筋目西入ル / Tel 075-231-1320）、奇数月は大阪経済大学（大阪会場＝大阪市東淀川区大隅 2-2-8）とする。ただし、1月例会は、入試の関係で会場変更になる可能性がある。会場予約は宇野木洋（白雲荘）・谷行博（大阪経済大学）、二次会会場予約は宇野木洋が担当する。

\*すでに決定している「例会」内容（【例会カレンダー】）は以下の通り。

|                |  |
|----------------|--|
| 4月例会           | 特別講演：岡崎由美「武俠小説と四川の薬市」 / 総会   |
| 5月例会           | 宮田さつき：台湾映像作品における日本・日本人像 - 「日本精神」 賛美の実態とその狙いについて<br>西村正男「中国のレコード会社の変遷とそのレーベル」 |
| 6月例会           | 星名宏修：複数の「島都」 / 複数の「現代性」、唐顯芸：王白淵の『蕨の道』について                                    |
| 7月例会           |  |
| 夏期合宿           |  |
| 9月例会           | 『野草』第78号合評   |
| 10月例会          |  |
| 11月例会          |  |
| 12月例会<br>(忘年会) | 特別企画（講演 / 書評など）  |
| 1月例会           |  |
| 3月例会           | 『野草』第79号合評   |

#### (4)「夏期合宿」開催

\*「夏期合宿」は、集中的な研究・交流の場として極めて重要である。今年度は、鈴木康予・津守陽を中心に具体化を進める。

なお、日程は8月の最終週の2泊3日とし、早急に内容を決定し発表する。多くの会員の参加を呼びかけたい。

#### (5)「書評の会」

\*「書評の会」は、偶数月（京都会場）の「例会」前（午前10:30頃開始）に実施する。研究会活動への反映のさせ方、研究水準の向上のあり方などについても、引き続き工夫する。今後、テーマを定めた共同研究会的なものへの展開なども視野に入れた取り組みも検討していく。担当は松浦恆雄・今泉秀人・西村正男とする。

#### (6)「特別事業」計画

\*研究会の事業として、宇野木洋を中心に、『図説中国 20世紀文学』（白帝社）の改訂作業に取り組む。この間、改訂準備委員会（宇野木洋・松浦恆雄・青野繁治）を設けたが活動が停滞しており、早急に編集委員会（執筆者グループ）を立ち上げる必要がある。

\*斎藤敏康・黄英哲が中心になって、『劉呐鷗日記』の刊行準備に取り組む。刊行時期に関しては、おって定める。

#### (7)「野草ネットワーク」

\*コンピュータネットワークを利用した『会報』『野草』編集作業の効率化は定着した。コンピュータネットワークは事務の効率化に留まらず、遠隔地との交流や種々の情報提供・発信手段としても、大

きな可能性を持っている。それを全ての会員のものとするために、インターネット環境の変化なども視野に入れつつ、今年度も引き続き実践的に検討を深める。担当は青野繁治・菅原慶乃とする。

\* 『野草』掲載論文の検索を始め、本研究会に関する様々な情報を発信している「中国文芸研究会ウェブサイト (<http://bluesky.osaka-gaidai.ac.jp/~bungei/bungei.shtml>) を、いっそう豊かな内容に充実させていく。特定の個人への負担を軽くするため、担当者を中心に「ウェブサイト」管理のあり方を検討していく。

\* 「野草 ML」( 加入手続 = 事務局 [bungei@aonoken.osaka-gaidai.ac.jp](mailto:bungei@aonoken.osaka-gaidai.ac.jp) までメールでアドレスを知らせること。手続が完了すると担当者からそのアドレスに通知がなされる ) を活用した会員間の交流にも期待したい。特に、論文・著書などを発表した際には、その情報を是非とも提供していただきたい。メルマガの加入も同様。

## 2. 運営体制について

\* 研究会の運営は、事務局、『野草』編集委員会および運営委員会によって行なう。若手層の参加を推進して再編・強化を図る。

### (1) 事務局と幹事

\* 事務局は、総会決定に基づき、研究会活動の日常的な実務を担当する。事務局構成メンバーと担当は以下の通り。( あいうえお順 )

青野繁治 ( ML サーバ管理・野草 78 号編集 )・井上薫 ( 会報編集 )・今泉秀人 ( 会計、書評の会 )・上原かおり ( 会報編集 )・宇野木洋 ( 特別事業・会場予約 )・河本美紀 ( 会報編集 )・黄英哲 ( 特別事業 )・斎藤敏康 ( 特別事業 )・佐原陽子 ( 会報編集 )・島由子 ( 会報編集 )・菅原慶乃 ( ホームページ管理 )・鈴木康予 ( 夏期合宿・メール便 )・津守陽 ( 会報編集・夏期合宿 )・中野知洋 ( 野草 ML 活性化 )・永井英美 ( 会報編集・メール便 )・西村正男 ( 書評の会 )・濱田麻矢 ( 例会・野草 80 号編集 )・平坂仁志 ( 野草印刷、会報メールマガジン )・藤野真子 ( 会員名簿管理・会報残部保管 )・松浦恆雄 ( 書評の会 )・三須祐介 ( 会報編集 )・好並晶 ( 刊行物海外発送 )・和田知久 ( 会報編集 )

\* 事務局の運営は幹事として青野繁治 ( 事務局長 )・宇野木洋・松浦恆雄・今泉秀人・藤野真子・好並晶・西村正男が担い、研究会活動のあり方を検討し、また活動全体について責任を負う。

\* 事務局の住所および電話番号は以下の通り。

〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1 大阪外国語大学 青野研究室気付  
( 0727-30-5245 )

### (2) 『野草』編集委員会

\* 『野草』編集委員会は、『野草』編集と刊行全体に責任を持ち、また「原稿審査 ( 査読 )」のあり方などを始め、中長期的な課題について検討を行なう。機動性を備える必要から、編集担当経験者である青野繁治・宇野木洋・太田進・北岡正子・斎藤敏康・谷行博・平坂仁志・福家道信・藤野真子・松浦恆雄・好並晶・和田知久・西村正男・黄英哲・永井英美・三須祐介・弓削俊洋・中野知洋および 79 号担当の工藤貴正、80 号担当の濱田麻矢によって構成する。編集委員会の日常業務としては投稿論文の査読を行うが、必要に応じて編集委員会が適当と判断した 編集委員以外の会員に査読者を依頼することもある。

\* 『野草』編集委員会は、必要があれば、参加者を拡大して開催することができる。

### (3) 運営委員会と会計監査

\* 運営委員会は、事務局では処理の困難な問題が生じたり、長期的・大局的な観点が必要とされる場合に、運営委員長責任において開催され、問題の処理にあたる。その構成は、太田進 ( 運営委員長 )・岡田英樹・笈文生・北岡正子および事務局構成メンバーとする。

\* 財政の健全な執行を図るべく会計監査を置く。会計監査は橋本草子とする。